

指導資料

保健体育 第38号

— 小, 中, 高, 特別支援学校対象 —

 鹿児島県総合教育センター

平成24年4月発行

「よい体育の授業」を求めて — 児童生徒と教師への意識調査を生かして —

授業をつくる際に、私たち教師は、学習内容と児童生徒のレディネスを把握するとともに、「一人一人に何を身に付けさせるのか。」ということを考え、指導法を工夫する。

教師には、「こんな授業をしたい。児童生徒をこのように変容させたい。」という思いがある。しかしながら、授業や教師に対する児童生徒の内面から湧き出てくる率直な意見、要望等に真摯に向き合う機会をつくり、それを受け止め、授業を改善してきただろうか。中には、児童生徒の実態やニーズを踏まえない、教師の思いのみが先行する授業もあるのではないだろうか。

そこで本稿では、「授業や教師に対する児童生徒の率直な意見、要望等と授業に対する教師の考えなどを把握する意識調査」の考察をまとめるとともに、日々の授業実践、研究授業・授業研究における指導・助言等の成果を集約して、「『よい体育の授業』の原則5」、
「『よい体育の授業』モデル」を考案する。それに基づいて、生徒による形成的授業評価を活用して、この授業の検証をする。さらに、それらを踏まえ、「『よい体育の授業』のチェックポイント15」としてまとめる。

1 意識調査の分析と考察・まとめ

(1) 意識調査

ア 時期 平成23年6月

イ 方法 質問紙法

ウ 対象者 児童生徒 計1,917人
小中高の体育教師 計56人

(2) 児童生徒に対する意識調査と考察

ア 「楽しい」と感じる場面とその変化

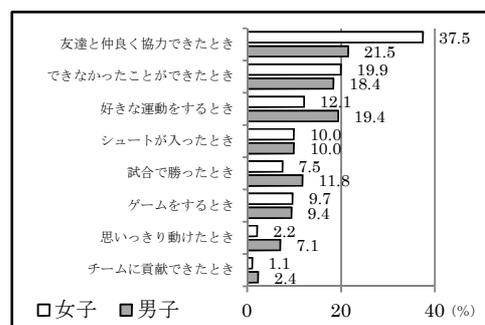


図1 「楽しい」と感じる場面

図1より、体育における楽しさを感じるのは、「友達と仲良く協力できたとき」、「できなかったことができたとき」という意見が多く、「授業内での仲間との良好な関わり」や「技術の習得による喜び」などが「体育の楽しさ」との関係性が高いことが分かる。

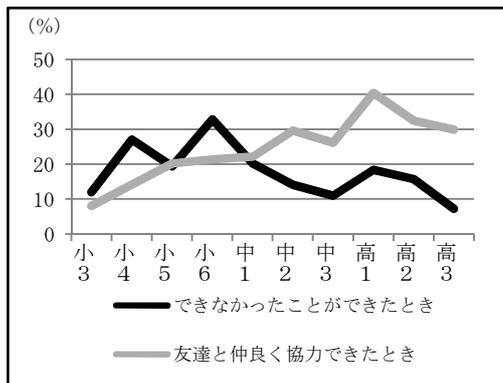


図2 楽しさの変化 (小3～高3)

また、「楽しさの変化」を示した図2より、小学校3年生から高等学校3年生までの回答した割合の推移をみると、学年が進行するに連れて、「できなかったことができたとき」に比べ「友達と仲良く協力できたとき」が増加している。

このことから、「人間関係づくり」を授業づくりの一つの重要な視点とする必要があることが分かる。

イ 教師への要望

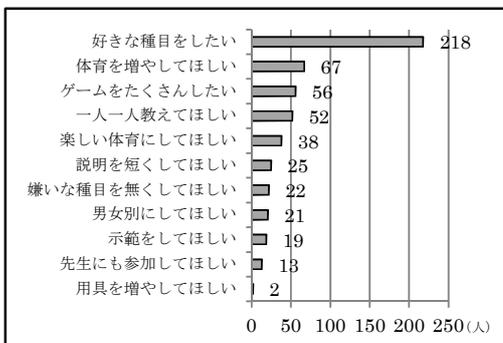


図3 教師への要望

図3より、「授業に関する教師への要望は何か」という問いに対して、「好きな種目をしたい」、「体育を増やしてほしい」、「ゲームをたくさんしたい」という回答が多かった。

このことから、学習目標に沿った内容で、運動の特性に触れながらゲーム化を図り、技術及び戦術を確実に習得

できるように工夫すること、また、教師は、学習の成果を上げるための、より効果的な児童生徒への関わり方を工夫する必要があることが分かる。

(3) 教師への意識調査と考察

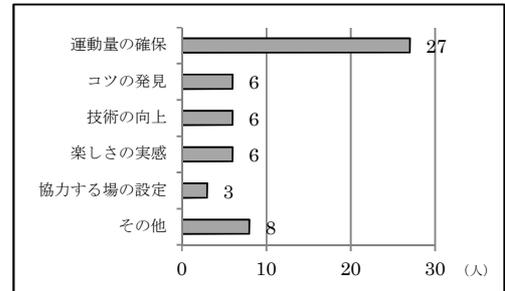


図4 指導上の力点

図4より、「1単位時間の指導過程では何を一番重視して、授業設計をしていますか」の問いに対して、多くの教師が「運動量の確保」と回答した。このことから、体力の向上に教師の力点が置かれており、「協力する場の設定」などの「人間関係づくり」を最も重視している教師は少ないことが分かる。

(4) まとめ

児童生徒は「友達と一緒に楽しみたい」、「技能を向上させたい」、「ゲームをたくさんしたい」と考えており、「友達との関わりの中」で「技能の向上」、「特性にふれる楽しさ」を望んでいる。また、教師に対しても「もっと先生と関わりたい」、「一人一人にもっと細かく教えてほしい」と願っている。一方、教師は、「運動量の確保」を最も重視しており、生徒と教師の授業に対する考え方には違いがあることが分かった。

以上のことを基に、学習指導の工夫として、「系統的な運動技術の習得」、「仲間との交流の活性化」、「教師の効果的な関わり」を設定した(図5)。

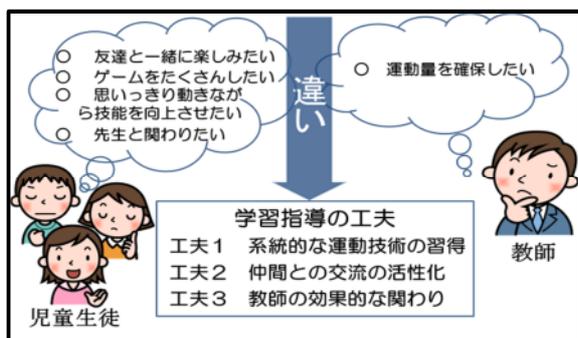


図5 まとめと学習指導の工夫

2 「よい体育の授業」の原則5

これまでの意識調査等の結果を生かして『よい体育の授業』の原則5（案）を考案した（表1）。

表1 「よい体育の授業」の原則5（案）

原則	内容
1	精一杯運動をして、汗を流す授業
2	仲間との交流があり、絆の深まる授業
3	技能の上達と体力の向上のある授業
4	教師の積極的な関わりのある授業
5	児童生徒の心に 気づき のある授業

(1) 原則1【精一杯】

児童生徒は、心から「思いっきり動きたい」と願っている。原則1は、その願いがスムーズに流れる（活動と思考過程が分断されない）授業である。

(2) 原則2【仲間】

児童生徒は、心から絆を求めている。原則2は、目標の達成を第一条件としながら、その根底に「仲間との交流」のある授業である。

(3) 原則3【上達】

児童生徒は、心から「うまくなりたい」と願っている。原則3は、上達させるために、様々な学習指導法・学習指導形態等の工夫のある授業である。

(4) 原則4【関わり】

児童生徒は、心から「先生と関わりたい」と願っている。原則4は、そんな思

いを生かし、称賛・激励、ふれあいなどを積極的にもち、ときには教師自らゲームに参加するなど、教師の一生懸命な姿、示範で汗を流す姿、丁寧に教える姿のある授業である。

(5) 原則5【気づき】

児童生徒は、心から「学びたい」と思っている。原則5は、学習目標の適切な設定や学習指導、発問、教材・教具の工夫等による内発的な「気づき」のある授業である。

3 「よい体育の授業」モデル

『よい体育の授業』の原則5（案）を基に考案した「『よい体育の授業』モデル（案）」（図6）について述べる。

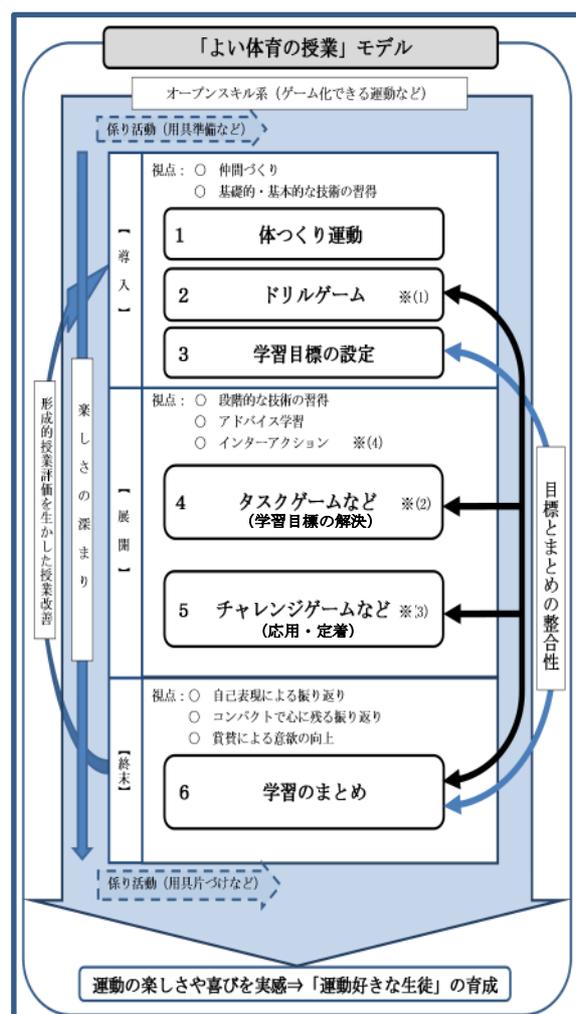


図6 「よい体育の授業」モデル(案)

【導入】部分では、「仲間づくりを意識した体づくり運動」及び「基礎的・基本的な技術の習得の場」を単元を通して設定する。

【展開】部分では、十分な運動学習時間（運動量）を確保する。そして、「段階的な技術・戦術の習得の場」を設定し、教師による効果的な「インターアクション」を充実させ、アドバイス学習による「練り合い、高め合う学習」を組み入れる。

【終末】部分では、称賛・激励する場を設定し、できるだけ短時間で「児童生徒の表現」（言葉・技術等）により学習のまとめをする。

なお、各運動領域の特性や安全面などに十分配慮し、展開部分の学習指導法（系統学習、問題解決的な学習等）、学習形態（グループ学習、個別学習等）を決める必要がある。

(1) 「ドリルゲーム」について

技術や動き方にかかわる反復練習をゲーム化したもので、繰り返しの運動を継続させることで、基礎的・基本的な技術と体力を高めることが目的である。

(2) 「タスクゲーム」について

ゲームにおける技能や戦術能を高めるために、特定の課題解決が焦点化されるようルールや場を工夫し、ゲーム化したものであり、「課題ゲーム」ともいう。

(3) 「チャレンジゲーム」について

タスクゲームで学習した技能や戦術能を生かし、より実践的なルールで、その習得状況を把握し、技能や戦術能のより高い定着を目指している。

(4) 「インターアクション」について

教師からの直接指導による相互作用を

意図したものである。常に、観察行動をし、効果的なタイミングで肯定的・矯正的かつ具体的なフィードバックを行うことにより、技術・戦術の習得への意欲を高め、定着を図る。

次に、この授業モデルを基にした検証授業を行った。

4 検証授業の実践例（P 5 参照）

学習過程に、「具体的な手立てと留意点」を組み入れた。

- (1) 実施学年 阿久根市立大川中学校
1・2年生 17人
- (2) 単元 球技「サッカー」

5 検証授業の考察

有効性の調査については、表2のような「形成的授業評価票」を活用した。

表2 形成的授業評価票

評価の視点	質問項目
意欲・関心	精一杯運動することができましたか。
	今日の授業は楽しむことができましたか。
成果	深くに寝ることや感動する場面がありましたか。
	今までできなかったこと（技能や作戦）ができるようになりましたか。
	「あつ分かった!」とか「あつそうか!」と感じることができましたか。
学び方	自分から進んで学習できましたか。
	自分のめあてに向かって何回も練習できましたか。
協力	友達と協力して仲良く学習できましたか。
	友達とお互いに教え合ったり、助け合ったりできましたか。
教師の関わり	先生に教えてもらいながら、学習ができましたか。

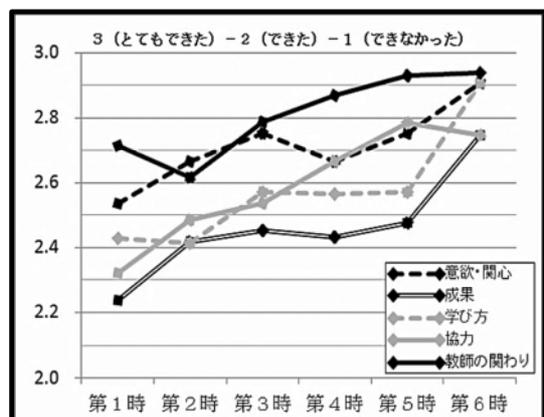


図7 形成的授業評価の推移

図7から、全ての視点において評価の数値が上がっていることが分かる。さらに、個別に見ても、単元の後半において「1」と評価している生徒はいなかったことから、実践例における学

習効果の大きかったことが分かる。

これらのことから、形成的授業評価を基にして、児童生徒の内面から、「『よい体育の授業』モデル(案)」の有効性をうかがうことができた。

【検証授業 1 単位時間の実践例 (全 6 時間扱いの 3 時間目)】

過程	学 習 活 動	□ : 活動内容の説明 ■ : 具体的な手立てと留意点	
導入 (15)	1 学習の準備や安全点検をする。	<input type="checkbox"/> 学習の準備 運動学習の時間の確保等のために、できるだけ授業開始前に、生徒に主体的に取り組ませる。 <input type="checkbox"/> 健康観察 教師は生徒とハイタッチをしながら、お互いに声掛けをし、心と体の状況を観察し、把握する。 <input type="checkbox"/> ハンドパスゲーム (類似の運動の設定) 体ほぐしと仲間づくりを大切に、取り組ませる。 <input type="checkbox"/> 1分間対面パス (下位教材の設定) インサイドキックで、より正確なパスを意識させ、時間を決めて往復の回数を競争させる。	
	2 整列、あいさつ、健康観察をする。		
	3 体づくり運動をする。		
	4 ドリルゲームをする。		
	5 学習目標・学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ボールキープができるようになり、チャレンジゲームを楽しもう。 </div>		
展開 (30)	6 タスクゲームをする (課題となる技術の習得)。 ① 副教材や資料で技術の構造 (動き) を知る。	■ 副教材や資料を活用させる際に、視点を明確にし、助言を与えながら、技術の構造についての理解を促す。 ■ ただ示範をするのではなく、6-①で理解した視点を基に、生徒に問い掛けて、生徒の思考・判断による言葉から技術のポイントを絞り、理解を促す。 <input type="checkbox"/> アドバイス学習 互いの課題を発見し、理解する。それを基に、課題の解決に向けた練習に取り組ませる。 ■ 個々の技能レベルに応じて、ポイントを絞り、肯定的・矯正的フィードバックを行う。 <input type="checkbox"/> 20秒間ボールキープゲーム 7m四方のグリッド内でボールをキープさせる。20秒経過した時点でキープしている者が1点。先に2点獲った者が勝ちとなる。 ■ ゲーム形式で行わせる中で、必要なインターアクションを更に積極的に行う。 <input type="checkbox"/> チャレンジゲーム タスクゲームで学習した技能や戦術能を、より実践的なゲームで生かし、試し、向上させる。 ■ 場の工夫により、全ての生徒が運動学習に従事できるようにする。(観察者をできるだけつくらない)	
	② 教師の示範により技術をイメージ化する。		
	③ 実際に挑戦し、学び合い高め合う。		
	④ 時間を決め、ゲーム形式で行う。		
	7 チャレンジゲームをする。		
	終末 (5)		8 整理運動をする。
			9 自己評価・まとめをする。
10 次時の学習内容を確認する。			
11 健康観察、あいさつ、後始末をする。	■ 発表(生徒の表現)により、本時を振り返らせ、まとめさせる。振り返りの内容が、学習目標と整合するように配慮する。 ■ 発表内容を基に相互評価させ、一人一人の技術の習得状況や課題を把握させる。また、個に応じて次時の目標を設定させる。		

6 「よい体育の授業」のチェックポイント15

授業を振り返り、その後の改善に役立
てるために、「『よい体育の授業』のチェッ

クポイント 15(案) (表3)」を考案し
た。

主なチェックポイントについて述べる。

表3 「よい体育」の授業のチェックポイント15(案)

原則	チェックポイント		評 定
原則1 【精一杯】	1	授業の場面展開がスムーズ(移動や待機場面、準備の時間が少ない)に行われていた。	4-3-2-1
	2	運動学習時間(1単位のめやすは小:27分,中:30分以上)が十分に確保されていた。	4-3-2-1
	3	学習のしつけ(授業の約束事:ルーティン)をきちんと行わせていた。	4-3-2-1
原則2 【仲間】	4	子どもの仲間づくりを考えた授業内容であった。	4-3-2-1
	5	子ども同士の積極的な教え合い、励まし、補助、協同作業があった。	4-3-2-1
	6	子どもの笑顔や拍手、歓声、喜びの表現(ハイタッチ・涙など)がみられた。	4-3-2-1
原則3 【上達】	7	個々のレディネスを把握した学習目標になっている。	4-3-2-1
	8	目標とまとめに整合性がある。	4-3-2-1
	9	目標に応じた方法(系統学習,問題解決学習,グループ学習,個別学習など)であった。	4-3-2-1
原則4 【関わり】	10	ほめたり励ましたりする活動やふれあいを積極的に行っていた。	4-3-2-1
	11	適切で具体的な指導や助言、補助を積極的に行っていた。	4-3-2-1
	12	心に残る(イメージ)示範をしていた。	4-3-2-1
原則5 【気づき】	13	学習成果を生み出すような運動(教材・教具、場づくり、課題)が用意されていた。	4-3-2-1
	14	子どもが「気づき」や「感動」を味わう場面があった。	4-3-2-1
	15	学習資料(学習ノート、ワークシート)が有効に活用されていた。	4-3-2-1

評定 4:たいへんよくあてはまる 3:よくあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない

(1) 児童生徒が満足する授業は、運動学
習の時間が十分に確保された授業であ
る。そのために、マネジメントを工夫
し、学習のしつけを身に付けさせ、ス
ムーズに授業が展開するように、工夫
する。

(チェックポイント1・2・3)

(2) 児童生徒が満足する授業は、協力的
で肯定的な人間関係が結ばれている授
業である。児童生徒の情緒的解放が自
然発生的に見られるように工夫する。

(チェックポイント4・5・6)

(3) 児童生徒が満足する授業は、教師と
の積極的な相互作用のある授業である。
質問やその応答、フィードバック、補

助などが盛んに行えるように工夫する。
(チェックポイント10・11・12)

本稿においては、児童生徒の本音と教師の
思いを生かして「よい体育の授業」を求めた。

今後、各学校において、この実践等が
よりよい体育の授業づくりの一助となれ
ば幸いである。

—引用・参考文献—

○ 高橋健夫編著『新版 体育科教育学入門』
2010, 大修館書店

○ 松本眞一編著『これならできる現場体育』
2007, 出版企画あさんてさーな
(教職研修課)